

人のぬくもりとふれあいが奏でる躍動のまち 丹波高原文化の郷 ●京丹波

京丹波

No.27
2008年
1月15日発行

迎春。
躍動への新しき光がのぼる

防 災
特集



新春ごあいさつ

まちの未来図の実現へ 今、改革の刻

京丹波町議会議長
岡本 勇

京丹波町長
松原 茂樹



今月の表紙

写真は、丹波高原の雄峰・長老ヶ岳(917m)から望む日の出。太陽の光が、立ち込める雲海を照らし出していく光景は、まさに絶景です。京丹波町として迎える3回目の新年。明るい光がさす、幸多い年にしたいものです。

町

民の皆様、新年明けましておめでとうございます。平成二十年の輝かしい新春をお迎えになりましたこと、心からお慶び申し上げます。

顧みますと、昨年は「年金記録漏れ」五千万件の発覚問題や食品偽装など、わたしたちの生活に直接かかわる重大な事件が相次ぎました。また、不安定な政局や原油価格の高騰など社会経済をめぐる情勢にも厳しいものがありました。今年こそは明るい話題の多い、良い年でありますよう願うものです。

本町におきましては、簡易水道整備工事にかかる取崩事件で、元副町長と幹部

こうした中、昨年三月、十年後のまちの将来目標像を「人のぬくもりとふれあい」が奏でる躍動のまち 丹波高原文化の郷 ●京丹波」とする「総合計画」基本構想を策定しました。この計画は、まちづくりの中心に「人」を位置づけ、町民の皆様と行政との協働によって「躍動するまち」をめざしていこうというものです。

新

年明けましておめでとうございます。町民の皆様におかれましては、平成二十年の輝かしい希望に満ちた新春をご家族おそろいでお迎えになられましたこと心からお慶び申し上げます。

日ごろは議会に対しまして、格別のご理解ご支援を賜っておりますこと厚くお礼を申し上げます。

この度の議会人事改選におきまして、再度議長の重責を担わせていただくことになりました。前期の反省にたち、地方分権時代に即した議会のさらなる活性化をめざし、また、議会の権能を果たし新しいまちづくり而努力していきますのでよろしくお願ひ申し上げます。

昨年を振り返りますと、老後の生活を

職員が逮捕・起訴される事態が発生しました。このことは、町民の皆様の信頼を大きく裏切るものであり、年頭のあいさつにあたり、改めまして心からお詫び申し上げます。

事件の再発防止を徹底するため、昨年十二月の議会定例会で議決をいただき、このほど「職員倫理条例」と「職員法令遵守推進条例」を制定しました。この二つの条例は、取崩事件を受けて有識者で設置した「入札事件に関する外部調査委員会」と、町内部の組織である「綱紀肅正倫理委員会」での検証や議会からの提言などを踏まえて制定したものです。今後はこの

昨年十一月に「住民自治組織によるまちづくり検討委員会」から提出された報告書をもとに、今後は、町民の皆様のまちづくり参加の場として「住民自治組織」が各地域で組織化されるようその支援に取り組みとともに、行政におきましては健全財政に基づく安定した町政運営の基盤を築くため、行政改革に全力を投じてい

条例に基づき、職員一丸となって、町民の皆様への信頼回復と不祥事を未然に防止できる強固な組織体制づくりに全力で取り組んでいく所存ですので、今後とも町政への変わらぬご理解、ご協力をお願い申し上げます。

さて、昨今の地方行政を取り巻く情勢は、国の財政再建に向けた三位一体の改革などにより、財源の確保は年々厳しさを増し、さらなる歳出の抑制が求められる状況にあります。また、地方分権が進む中、地域間格差も顕在化してきており、それぞれの町の力量が試される時代になってきました。

く所存です。また、懸案のケーブルテレビ整備については、今年度中に実施設計を完了し、平成二十年からの本格的な事業着手に移っていきたく考えています。今年も、町民の皆様にとりまして、幸せ多い年であることを心からお祈り申し上げます。新年のごあいさつといたします。

が、行政部局と連携して一日も早い信頼回復に努めていく所存です。

さて、地方自治体を取り巻く状況は、交付税削減や実質公債費比率の新たな財政指標導入などにより厳しい状況を迎えています。地域の一体性を確保するためには欠かすことができない事業が山積しています。議会としても総合計画に基づいたまちづくりが推進できるよう、議員一丸となつて議会活動にまい進していきますので、ご指導、ご鞭撻をよろしくお願ひ申し上げます。

新年にあたりまして、京丹波町のさらなる躍進と発展、あわせて皆様のご健康とご多幸を心からお祈りいたします。年頭のごあいさつといたします。

京丹波 No.27 CONTENTS

- 2 新春ごあいさつ
- 4 '07京丹波の主なできごと
- 5 防・災
- 12 人の動き
- 13 Dr's Message いきいき健康術
- 14 フラッシュ TOWN NEWS 2007
 - アルバの音色で人権への理解深める
—人権講演会
 - 47チームが健脚競う
—町民駅伝競走大会
 - 子どもたちの募金、世界へ
—質美小でユニセフ募金
 - 地域の伝統文化で親よく深める
—北部振興会「北部ミニ文化祭」
 - 農林水産業の振興と発展に功績
—農林水産業功労者表彰・土づくりコンクール表彰
 - 観光団体が一堂に会し、熱い議論
—観光団体意見交換会
 - 地域力の光、きらめく
—琴滝イルミネーション「冬ほたる」
- 16 わたしの年賀状
子年生まれの人登場



戦後最大の被害をもたらした、日本中に大きな衝撃を与えた阪神・淡路大震災。あれから十三年たった今、震災がもたらした教訓は生かされているでしょうか。今回の特集は、防災について考えます。

防災

特集

災害の現場は他人事ではありません。もしかしたら明日、地震が発生するかもしれませんし、どんな大きな事故が起こらないとも限りません。

戦後最大の被害をもたらした、日本中に大きな衝撃を与えた阪神・淡路大震災。あれから十三年たった今、震災がもたらした教訓は生かされているでしょうか。今回の特集は、防災について考えます。

近

年、頻発する台風の上陸や局地的な集中豪雨、大雪、いつ、どこで起きるか分からない地震などの自然災害により、全国各地で大きな被害が発生しています。近い将来においては東海地震、南海・南海地震などの大規模地震の発生も懸念されています。このように、わたしたちが暮らしている日本は、災害列島なのです。テレビや新聞を通じて伝えられる自然

風化させてはならない—瓦礫の山が伝えた教訓を。



まるで空襲を受けたかのような光景に日本中が衝撃を受けました。瓦礫の山は震度7の激震と2次災害の恐ろしさを物語っています。(神戸市長田区、広報瑞穂No.312・平成7年3月15日発行から)

大震災から十三年
平成七年一月十七日午前五時四十六分、震度七の大地震が兵庫県南部を襲いました。阪神・淡路大震災です。戦後最悪の被害をもたらした都市型震災は六、四三二人の尊い命を奪いました。深い悲しみと衝撃を与えた大震災は、一方で、数々の教訓をもたらしてくれました。この震災をきっかけに人びとの防災対策への意識が変わりました。ボランティア活動も盛んになりました。

大震災から十三年。テレビや新聞を通じて、瓦礫の山が伝えてくれた教訓を風化させてはなりません。

2007年を振り返る

1月 January

- 成人式を開催。新成人192人が出席(7日)
- 町消防団出初め式を開催(8日)

2月 February

- 町総合計画審議会が基本構想案を答申(7日)
- オーストラリア・ホークスベリー市と姉妹都市協定を締結(9日)

3月 March

- 総合計画基本構想を策定
- 瑞穂地区の保育所統合に伴い、梅田・質美の両保育所が閉園(31日)
- 合併後初の町勢要覧を発行
- 障害者基本計画、男女共同参画計画、地域防災計画、国民保護計画を策定

4月 April

- 町消防団に33人が入団(1日)
- 丹波食彩の工房、特産館「和」が指定管理者制度へ(1日)

5月 May

- 和知簡易水道整備工事にかかる収賄容疑で町幹部職員が逮捕される(29日)。
- 6月21日には別件工事の収賄容疑で副町長が逮捕
- 農政改革のひとつ「農地・水・環境保全向上対策」の説明会を開く

6月 June

- ボランティアロード(国道9号の美化活動)に国交大臣表彰(2日)
- 収賄事件を受け、町は入札制度を改正。「条件付一般競争入札」を施行(15日)。
- 議会は収賄事件調査特別委員会を設置(25日)。町は外部調査委員会を設置(29日)
- 町政懇談会を12会場で開催(26日～8月3日)

7月 July

- 長瀬大橋開通式・アグリパークわち開園記念式典が行われる(14日)

8月 August

- 京都府との税務共同化開始(1日)
- 須知高女子ホッケー部が佐賀インターハイで優勝し、10年ぶり2度目の日本一に輝く(2日)
- たんば夏まつり(5日)、瑞穂納涼大会(17日)、わちふるさと祭り(25日)が開催される
- 行政改革推進委員会が発足(29日)

9月 September

- 町シルバーオリンピックを開催(15日)

10月 October

- 監理課を設置(1日)
- 総合計画基本計画を策定(11日)
- 瑞穂地区の小学校統合を考える「教育懇談会」を10会場で開く(15日～11月1日)
- 選挙投票区を再編
- 合併後初の町戦没者追悼式を開催(30日)

11月 November

- 町文化祭を丹波(10月27日～29日)・和知会場(4日)で開催
- 3商工会が合併調印を結ぶ(20日)
- 住民自治組織によるまちづくり検討委員会が町長に報告書を提出(22日)

12月 December

- 町駅伝競走大会を開催(9日)
- 教育長に寺井行雄氏が就任(12日)
- 琴滝「冬ほたる」が開催される(15日～24日)



		'07	≪
主	京		≫
な	丹		○
で	波		└
き	の		▲
ご			■
と			■
			▲



10年ぶり2度目のインターハイ優勝を決め、抱き合って喜びを分かち合う須知高女子ホッケー部員。いくつもの苦難を乗り越え、手にした栄冠です。(佐賀県伊万里市・国見台陸上競技場)



京丹波町として初の戦没者追悼式に約370人の遺族らが参列。献花を行い霊を慰めるとともに、平和への誓いを新たにしました。写真は式辞を述べる松原町長。(和知ふれあいセンター、本庄)

①長瀬大橋開通式。
②合併契約書に調印し、固い握手を交わす3町商工会長。(丹波町商工会館)
③町政懇談会。(山村開発センター、大朴)

公助のチカラ

ふるさとを守る心意気——消防団

災

害から住民の生命、身体、財産を守るという使命と精神を胸に活動する男たちがいます。消防団員たちです。消防団は市町村の防災機関の一つ。消防署と並んで地域の安心・安全を守る「公助のチカラ」です。

知支団の三支団で構成。丹波支団には七分団十五部、瑞穂支団には五分団十九部、和知支団には四分団十五部を設け、八百八十三人の男たちが、それぞれ仕事をしつつ中で消防団活動に力を注いでいます。愛する家族を、地域の人びとを、ふるさとを守る消防団員たちの熱き心意気に迫ります。



まちを守る熱き男たちがいる——。

消防団員は地域の「核」に

少子高齢化や過疎化が進むこれからの時代、消防団員は消防のことでなくても「核」となって活躍している。ただでさえ「しんどい、きつい」イメージが先行している消防なのに、こんなことを言えば、さらに団員の確保は難しくなると言われるかもしれないが、やはり、消防団員も地域の一人として「ここに住んで良かった」と言えるまちづくりのために動いていくことが大切だと思います。そうやって地域に積極的にかかわっていくことで、消防活動もさら

地域を覚え、人を知ること、大切な防災対策。



消防団長 森 良行さん
旧和知町消防団長を経て、平成18年4月1日町消防団初代団長に就任。安栖里在住、48歳

にがんばれると思います。「地域を覚え、人を知る」ことは防災において大切なことではないでしょうか。

消防団の主な活動

1 消火



町内で火災が発生したときには直ちに出勤し、消防署と連携して消火活動にあたります。火災現場では的確な指揮・命令のもと、団員たちは水利の確保やホースの搬送・延伸、中継、放水、伝令などを機敏に行い、延焼拡大を防ぎます。

2 水防



台風や豪雨などに伴い災害が発生したとき、または発生する恐れがあるとき、消防団は出勤して水防活動を行います。危険個所の警戒にあたり、浸水被害が発生しそうな場所に土のうを積んだりして、被害を最小限に食い止めます。

3 訓練



火災や風水害、地震などの災害の現場で、安全に活動を行うために訓練は欠かせません。消防団では、火災現場における消火活動の基本となる操法訓練をはじめ、実火災を想定した訓練や水防訓練など、各種訓練を重ねています。

4 予防・啓発



春・秋の火災予防運動期間中の啓発活動や防火パトロール、年末警戒などの予防・啓発活動は、消防団の平時の大切な役割です。ほかに、地域内の高齢者宅訪問や普通救命講習会の実施などの活動にも取り組んでいます。

「本部に在る以上、管内（瑞穂地区）の火事は必ず消す、住民の生命と財産を守るという『消防精神』を忘れずに、日ごろの消防団活動に取り組んでいます」と話すのは、瑞穂支団第一分団第一部部长の上原輝也さん。「実火災では、部員全員がケガなく消火活動ができるよう安全を確保するのが、部長としてのわたしの役目だと思っています」と言葉に力を込めます。

実際に水を出す『放水訓練』を毎月第三日曜日に行っています」と上原さん。毎月の訓練は、部員相互の信頼関係をほぐくむ場でもあると話します。「火災現場では、部員同士は、お互いに助け合う精神を持って、命を守り合わなければならない仲間です。だからこそ、相互の信頼関係が大切なのです」と上原さんは話します。



情熱人——瑞穂支団第一分団第一部部长
上原輝也さん
Teruya Uehara

消防団活動。それは家族の理解と部員同士の信頼関係があつてこそその活動です。

【Profile】
うえはら てるや
平成2年1月に旧瑞穂町消防団に入団。現在、瑞穂支団第一分団第一部部长を務める。平成16年京都府消防操法大会に指揮者として出場。橋爪在住、40歳

Topics

消防団組織の再編へ

町では、「消防団組織等審議会」を設置し、町長の諮問に基づき組織体制や消防施設・装備など、今後の消防団のあり方を協議。町は審議会からの答申をもとに、組織再編に向け、準備を進めます。



Column

安心・安全なまちづくりへのコンパス「地域防災計画」

町は昨年度、災害対策基本法に基づき、風水害対策や地震対策について示す「地域防災計画」を策定。この計画に基づき防災対策を進めています。



共助を
考える

自主防災の本質

消防署も消防団もあるのに、なぜ、地域での自主防災が必要なのか。こんな疑問を抱いている方も少なくないことでしょう。ここでは、自主防災とはどういうことなのか、なぜ必要なのか、自主防災の本質を考えます。



消火器を使って初期消火訓練に取り組む丹波女性消防協力隊の皆さん。(町ふれあい広場、蒲生)

自主防災の原点は「共助」の心

地

震など大規模な災害が発生したとき、被害の拡大を防ぐためには、消防署や自治体、消防団などの対応(公助)だけでは限界があります。そうしたとき必要になるのが、「自助」と「共助」。すなわち、自分の身や自分の努力によって守るとともに、近所や地域の人びとが、互いに協力し合い、助け合って初期消火や救助、応急手当などの防災活動を行うことが必要になってきます。

こうした共助の防災活動を地域で組織的に行っていくというのが自主防災組織。文字通り、地域の人びとが、「自分たちの地域は自分たちで守っていく」という意識と連帯感をもって自主的に結成する組織です。

戦後最大の被害をもたらした「阪神・淡路大震災」では、消防署や警察、自治体も消防団も、公助の力はみな、消



丹波女性消防協力隊長 山内 和代さん

平成13年から隊長として活躍。ほかに主任児童委員や子育て地域パートナーとしても活躍中。須知在住、59歳

「向こう三軒両隣」。防災上、大切な言葉ですね。

丹波女性消防協力隊は隊員数二百六人で、年間に、夏季訓練や消火器の取り扱い訓練、防火座談会などの活動を行っています。また、各地域にある分隊でも、区の役員や消防団員などと連携して、防火パトロールや高齢者宅の防火訪問などの活動を行っています。

もしも今、地震が発生したら、家族や近所のお年寄りや子どもたちを支えていくのはだれか、消防団員は、家族や地域の心配をしながらも、それでも消防団活動に出て行かなければなりません。そのとき、地域の安全を確保するために動けるのは、わたしたち女性だと思えます。災害時、わたしたち女性に何が出来るだろう。そう考えたとき、やはり日ごろからの備えが大切であり、一人ひとりが防災意識を高められる場として、女性消防協力隊というのは意義のある活動なのだと思います。

「向こう三軒両隣」という言葉がありますが、防災上、大切なことだと思います。常日ごろからの近所づきあい、地域づきあいから防災対策は始まっているのかもしれない。

防災のエキスパートが語る

園部消防署丹波出張所長 廣瀬 仁久さん



【Profile】ひろせ よしひさ
平成17年4月に園部消防署丹波出張所へ所長として赴任。57歳

自主防災には、日ごろから「助け合いの心」を共有していくことが大切です。

災害が発生したとき、消防などの公的機関が現場に着く前に、また、公的機関の救出・救助の手が届かないところで自分たちで行動する、被害に遭っていない人が、被害に遭った人を助けるなど、協力し合って、共に助け合って繰り広げる共助の防災活動が自主防災の基本です。近年、震災の教訓から自主防災の必要性を学び、全国各地で

火に人命救助、避難誘導などに夜を徹して奔走しました。過労によって消防士が亡くなったのも事実です。しかし、大規模災害においては、そうした公助の、命をかけた災害救助活動にも限界があるのです。

家屋の倒壊は数え切れませんでした。あちらでも、こちらでも上がる火の手は消防署や消防団だけで対応できる数ではありませんでした。幹線道路は大渋滞を起し、消防や警察の現場到着も大幅に遅れました。このような状況の中、公助の力で対応しきれないところで大きな力になったのが、住民同士の共助の防災活動でした。近所や自治会内の住民が互いに協力して、助け合っ

て倒壊した家屋から人命を救い、二次災害による被害を軽減したのです。

また、平成十六年の新潟県中越地震における旧山古志村(現長岡市)で、震災当日に住民のすべての安否を確認できたことは、「共助」の防災活動の最たる例といわれています。

こうした過去の震災を教訓に今、全国で自主防災への意識が高まり、自主防災組織の立ち上げが進んでいます。自主防災は、とりあえず組織を立ち上げれば良いというものではありません。住民の防災意識と共助の気持ちの上になり立つものです。災害に備えて家族で、地域で話し合ってみるここから始まるものなのです。

Y o s h i h i s a H i r o s e



「自主防災組織」が立ち上がり、地域住民が力を合わせた自主的な防災活動が展開されています。集落や自治会を単位とした組織もあれば、消防団のOBでつくっている組織もあります。活動も消火器を使った初期消火訓練から、避難誘導や炊き出し訓練など震災を想定した大規模な防災訓練まで、さまざまですが、ここで大切なのは、組織の力が発揮できるかどうかであり、そのためには、日ごろから地域の生活の中で助け合いの心を共有していくことです。

消防署では今、「住民の心とふれあい、安全安心を消防から」をスローガンとして防火座談会や一人暮らし高齢者世帯への防火訪問、救急講習会などを積極的に実施しています。これからは丹波出張所員一丸となって、住民の皆さんの安全と安心を確保するため、がんばっていきます。

3 避難所・避難地

地区名	避難地
竹野小学校区	竹野小学校グラウンド
丹波ひかり小学校区	旧須知小学校グラウンド
	蒲生野中学校グラウンド
	丹波ひかり小学校グラウンド
上豊田グラウンド	
下山小学校区	下山小学校グラウンド
桧山	瑞穂中学校グラウンド
	桧山小学校グラウンド
梅田	明俊小学校グラウンド
三ノ宮	三ノ宮小学校グラウンド
質美	質美小学校グラウンド
仏主・上栗野・下栗野・西河内・細谷	和知北部コミュニティ広場
篠原・大迫・長瀬・塩谷・上乙見・下乙見	旧和知第二小学校グラウンド
中山・升谷・市場・大倉・小畑	和知中学校グラウンド
本庄・坂原	和知小学校グラウンド
中・角・広瀬・稲次・安栖里	わちグラウンド
才原・出野・大簾・広野	広野運動広場

避難所	一次	二次
丹波	笹尾 笹尾区公民館	竹野地区 基幹集落 センター
	中畑 中畑区公民館	
	辻村 辻村区公民館	
	中村 中村ふれあいセンター	
	鎌倉 鎌倉生活改善センター	
	下村 下村区公民館	
	西階 西階区公民館	
	水戸 水戸区集落センター	
	新水戸 新水戸区公民館	
	須知 旧須知小学校	
一次	市森 市森区公民館	町健康管理 センター
	上野 上野区公民館	
	上野老人憩いの家	
	蒲生 蒲生区集落センター	
	蒲生野 蒲生野区公民館	
	曾根 曾根公民館	
	院内 院内公民館	
	幸野 幸野区公民館	
	森 森区公民館	
	塩田谷 塩田谷区公民館	
二次	安井 安井区公民館	丹波ひかり 小学校
	富田 富田公民館	
	豊田 豊田区集会所	
	上豊田 町生涯学習センター	
	実勢 実勢区公民館	
	みのりが丘 みのりが丘集会所	
	黒瀬 黒瀬区公民館	
	知野辺 知野辺区公民館	
	駅前 駅前公民館	
	尾長野 尾長野ふれあいセンター	
一次	藤 藤ふれあいセンター	和楽美 センター
	白土 願生寺	
	上新田 上新田集会所	
	下新田 下新田集会所	
	グリーンハイ 清涼館	

瑞穂	一次	二次
中台 中台公民館	山村開発セン ターみずほ	
橋爪 橋爪公民館		
和田 和田公民館		
井脇 井脇公民館		
大朴 大朴公民館		
井尻 井尻公民館		
八田 八田公民館		
小野 小野公民館		
長谷 長谷集会所		
坂井 坂井公民館		
一次	水原 水原公民館	梅田振興 センター
	上大久保 上大久保公民館	
	下大久保 下大久保公民館	
	鎌谷下 鎌谷下公民館	
	鎌谷中 鎌谷中公民館	
	鎌谷奥 鎌谷奥公民館	
	東又 東又公民館	
	保井谷 保井谷公民館	
	粟野 粟野公民館	
	妙楽寺 妙楽寺公民館	
一次	水呑 水呑公民館	三ノ宮基幹 集落センター
	三ノ宮 三ノ宮集会所	
	質志 質志公民館	
	戸津川 戸津川公民館	
	猪鼻 猪鼻公民館	
	行仏 行中農事集会所	
	中村 中村公民館	
	庄ノ路 庄ノ路公民館	
	和田 和田公民館	
	上野 上野公民館	
二次	下村 下村公民館	質美振興 センター
	北久保 北久保公民館	

【一次避難所】主に予防避難を含む初動避難所
【二次避難所】主に一次避難所が使用できない場合や大規模災害時の避難所



避難訓練する園児たち
(わちエンジェル、大倉)

災

害時には、家屋の倒壊や延焼拡大により、危険が迫った地域の皆さんは、安全な場所へ避難しなければなりません。避難場所の整備は、二次災害から多くの命を救うために重要なことなのです。このため、町では次の各表のとおり避難地・避難所を指定しています。

避難地とは、災害発生時に一時的に避難する場所。各小中学校グラウンドなどを指定しています。

また、避難所とは、災害によって被害を受けるおそれのある方を二次収容、保護するために開設する、宿泊・給食などの生活機能を確保するための場所です。各区の公民館などを指定しています。

1 緊急物資の備蓄

緊急物資備蓄計画
【食料関係】(5年間で約10,000人分) ●カンパン、梅粥、飲料水、 ●粉ミルク(2年で900食分)
【医療対策】 ●医療セット(6個、1箱20人対応)
【要配慮者対策】 ●子供用紙オムツ(10年間で400人分) ●成人用紙オムツなど(10年間で900人分) ●生理用品(10年間で500人分) ●非常用毛布
【トイレ対策】 ●簡易組立立てトイレ、トイレ処理剤
【生活対策】 ●非常用水袋(3リットル、200個) ●非常用水袋(10リットル、30個) ●食器セット



計画に基づき、約1万人分(想定最大避難者数の2食分)の食料と避難所での生活物資を備蓄しています。(町ふれあい広場管理棟、蒲生)

2 家庭でできる地震対策

大きな地震が起きたら：

- ① 落ち着いて身の安全を確保しましょう。
- ② 使用中のガス器具やストーブは、すばやく火を消しましょう。
- ③ 避難は徒歩で、持ち物は最小限度に。
- ④ ラジオやテレビで正しい情報の入手を。

日ごろから家屋の点検を

- ① 家具は凶器に変わります。金具などでしっかりと固定しておきましょう。
- ② 玄関は大切な非常口。物が散乱して避難できないということがないように、日ごろから整理整頓しましょう。
- ③ 家の周辺に危険物がないかも点検しておきましょう。

非常持ち出し袋の用意を

印鑑、現金、通帳、救急箱、懐中電灯、ラジオ、毛布、食料、水などを入れた非常持ち出し袋を用意しておくことが大切です。

町

では現在、総務省消防庁が平成十九年三月に取りまとめた「緊急物資調達の調整体制」方法に関する調査検討報告書」を参考に、食料や避難所などにおける生活物資を備蓄しています。備蓄数量は左の表のとおりです。物資の保管は本庁・各支所で行っており、地震などの災害が発生したときには避難所などに配分します。

備える

知っておきたい防災情報

ここでは、町内の避難所や家庭でできる地震対策など、「知っておきたい防災情報」をお伝えします。災害発生時に落ち着いて安全に行動するためには、各家庭での日ごろの備えが大切です。災害発生時の対処を家族で話し合ったり、非常持ち出し袋を用意したりして、予期せぬ災害に備えましょう。



園部消防署員によるはしで車を使った放水演習を見上げる園児たち。(わちエンジェル、大倉)

人の動き

(敬称略)

教育長に寺井行雄氏

山本和之教育長が任期満了に伴い退任し、新しく寺井行雄氏が教育委員に就任。十二月十二日に開かれた教育委員会臨時会で教育長に選任されました。任期は四年。
また、この日、教育委員長に水嶋正治氏(質美)が、職務代理者に大田喜好氏(大迫)が再任されました。



寺井行雄(てらい ゆきお)
町参事などを歴任し、11月30日付け退職。富田在住、55歳。

■公平委員会委員(任期四年)
【再任】大西好美(質美)

■固定資産評価審査委員会委員(任期三年)

【新任】一谷肇(口八田)

【退任】真野耕太郎(新水戸)

■人権擁護委員(任期三年)

【新任】前谷幹夫(下山)
【退任】西垣隆男(水戸)

新しい民生児童委員・主任児童委員の皆さん

民生委員・児童委員及び主任児童委員の一斉改選で、十二月一日付け、新委員が誕生。同六日に開いた委嘱辞令伝達式において厚生労働大臣と京都府知事からの委嘱状が交付されました。

秘密は厳守、お気軽にご相談ください。

民生児童委員は「社会奉仕の精神で保護・指導にあたり、社会福祉の増進に勤める」ことを基本に、相談・生活支援・情報提供など、さまざまな福祉のパイプ役として、重要な役割を担います。主任児童委員は、児童福祉に関する相談などを専門的に担当します。
秘密やプライバシーは厳守されますので、日常生活での不安や心配事の窓口として、お気軽にご相談ください。新しい委員は次の皆さんです。



委嘱辞令交付式で、松原町長(左)から委嘱辞令の交付を受ける丹波地区・主任児童委員の山内和代さん。(町中央公民館、蒲生)

■民生児童委員(任期三年)

【丹波地区】

菅尾・中畑・辻村/横山育子
中村・鎌谷・下村/小峰喜代子
西階・水戸/船越可な江
新水戸/松田八千代
須知・市森/湊昌平▼和久田治野
▼杉本知子

上野/長澤玲子

蒲生/中村京子

蒲生野/石田美恵

曾根・院内・幸野・森/森峯子

塩田谷・安井/谷山千栄子

富田/森田春美▼中安幸代

豊田/田中利昭▼森田悦子

上豊田/谷口敬一▼野口明子

実勢/熊谷じゅん子

みのりが丘/若松孝子

下山(駅前・黒瀬)/山内建夫

下山(尾長野・厳・新田)/小森拓美

下山(知野辺・白土)/谷口敏数

グリーンハイツ/小畑みつ子▼荻野明子

▼近藤春美

主任児童委員/山内和代▼東良一

【瑞穂地区】

中台/庄林藤夫

橋爪/酒井ゆり子

和田/太田悦子

井脇/松村徳雄

大井/谷正昭

井尻・長谷/中村良三

八田・小野/阪内敬明

坂井・水原/谷垣勇

上大久保/谷垣清治

下大久保/畠中千鳥

鎌谷下・東又/上田駿

鎌谷中/田中強

鎌谷奥/上田喜代寛

保井谷・粟野/竹内美代子

妙楽寺・三ノ宮/山内公夫

水呑/津田ふじの

質志・戸津川/東利博

猪鼻/宇野文字

行仏/中村/三好久男

庄ノ路・和田上野/竹野美都子

下村(白屋・老ノ路・空路)/大西晴乗

下村(中野)/北久保/山下俊子

主任児童委員/大西好美▼上田美恵子

【和知地区】

中山/小林衣江

升谷/山内康彦

市場/梅原千代美

大倉/乾きよの

篠原/川邊まき子

大迫/堀鈴代

長瀬/塩谷/松下久子

上乙見/下乙見/竹内繁夫

西河内/井爪仁司

下栗野/榎本藤雄

細谷/今西正

仏主/上栗野/三嶋郁夫

本庄/春田貢▼寺井温子

坂原/野間まゆみ

中/野間智子

角/江本博司

広瀬/樋口由実

才原/原田芳子

大藤/才村清治

広野/片山勝紀

出野/稲次/下村嘉寿恵

安栖里/片山智子

小畑/正田恭丈

主任児童委員/江本範子▼下村恵子

痔でござん

このコーナーは、町立病院・診療所の医師が皆さんにお届けする健康情報コーナーです。今回の担当医は瑞穂病院の前田武昌先生。痔になる主な原因や予防するために心がけたいこと、治療についてのお話です。

痔

で困っていませんか。痔は肛門疾患の中で一番多い病気です。一般的には、内痔核、外痔核、裂肛、痔瘻をまとめて痔と言われているようですが、今回は内痔核の原因・予防・治療について簡単に説明します。

痔の原因

肛門粘膜下の静脈は網目状になっていて、この静脈に血液が停滞して(鬱血)腫れた状態になったものが痔です。すなわち、この静脈に鬱血を起こしやすい状況が続くと痔になります。長時間の座位、便秘(排便時にいきむこと)で鬱血する、冷え、妊娠・出産、飲酒などが主な原因です。また便秘による硬い便や頻回の下痢などによる肛門粘膜に対する過度の刺激も局所の炎症腫脹を起こし痔の原因となります。

痔を予防するために

痔の予防は先に述べた原因を極力排除すること。つまり、長時間座ったままにしない、防寒対策をする、過度の飲酒をさける、日ごろから規則正しい便通を心がけることが大切です。

痔の治療について

痔の大きさや数、出血の程度により治療が異なりますが、初期には先に述べた予防の方法を実践して坐薬(肛門内に挿入する薬)を併用することで軽快・治癒します。出血が多いとか、排便以外の時も肛門外に痔が脱出しているような状態では保存的治療よりも手術をした方が早く直る事もありますので外科受診をお勧めします。

痔だと思っていいたら直腸がんだったと言ったこともよくありますので、出血が長引いている場合などは、特に大腸精査も兼ねて受診する事が重要です。



今月の医師

前田武昌先生(瑞穂病院外科部長)

Dr's Message

いきいき健康術 第5回



24万灯のきらめきがつくり出す光の空間は、まるで冬に舞うほたるのような美しさ。今年も多くの人びとに感動を与えました。

地域力の光、きらめく 「琴滝イルミネーション」冬ほたる

京丹波町の名勝・琴滝を約二十万灯の発光ダイオード(LED)で飾る「琴滝冬ほたる」(NPO法人・丹波みらい研究会)が、十二月十五日―二十四日までの十日間開催され、約二万六千人の人数がありました。今年は、昨年と比べLEDの数を倍増。遊歩道沿いにLEDを敷き詰めた新しい光のオブジェが訪れた人びとに感動を与えていました。また、期間中には、オカリナやジャズ、丹波町商工会女性部のハンドベル演奏などのクリスマスライブも催され、来場者は青白二色の光が作り出す幻想的な空間の中で、ロマンチックなひとときを楽しんでいました。



遊歩道入口。地面に敷き詰められたLEDが放つ光が、静寂の森を青白く包み込み、神秘的な空間を演出。

わたしたちの町	
人口	17,467(-31)
男	8,228(-20)
女	9,186(-11)
世帯数	6,500(-18)
1月1日現在()は前月比	



しめ縄を作りながら親ほくを深める参加者たち。(下栗野体育館、下栗野)

農林水産業の振興と発展に功績 農林水産業功労者表彰・土づくりコンクール表彰

岸本和雄さん(蒲生)と山口育代さん(長瀬)が、このほど「平成十九年度農林水産業功労者表彰」を受賞。畜産業を営む岸本さんは、飼料内容を工夫した「こだわり豚肉」の生産に努め、生産情報を店頭公表する「トレーサビリティ」を実践するなど、消費者から信頼される生産者として畜産業の振興と発展に尽力した功績が認められました。

地域リーダーとして地域や女性が元気になる直売活動や農産物加工に取り組む山口さんは、直

播き栽培・特別栽培米の生産、都市と農村の交流を推進するなど、農業の振興と発展に尽力した功績が認められての受賞です。

また、このほど行われた「第五回京都府土づくりコンクール」において、「JA京都野菜部会丹波支部(伏見トウガラシ)」が、社団法人京のふるさと産品価格流通安定協会理事長表彰を受賞。土づくりのこだわり、確かなものづくりを進める生産グループとしての功績が認められました。



栄えある賞を受賞した岸本和雄さん夫妻(前列左から1、2人目)、山口育代さん夫妻(前列右から1、2人目)

地域の伝統文化で 親ほくを深める 北部振興会「北部ミニ文化祭」

和知地区北部五集落でつくる地域振興組織「北部振興会」が十二月九日、「第一回北部ミニ文化祭」を和知北部コミュニティ広場(下栗野)と西河内集落センター(西河内)で行い、地域住民ら約四十人が参加しました。この行事は、北部地域ならではの生活の知恵や郷土料理、伝統行事などの文化を継承しようとして初めて開催されたもの。参加した住民らは、地域の伝統的な料理「サバのなれ寿司」やお正月のしめ縄づくりを楽しみながら、互いの親ほくを深めました。



アルパの美しい音色に参加者たちは聞き入っていました。(山村開発センターみずほ、大朴)

アルパの音色で 人権への理解深める 人権講演会

京丹波町人権講演会(町人権啓発推進協議会など主催)が十二月一日、山村開発センターみずほ(大朴)で開催され、約百六十人の町民が参加しました。

この日の講師は、アルパ奏者で学校心理士の上ノ山幸代さん。「自分をゆつくり見つめてみようをテーマに、アルパの弾き語りや、かつて南米パラグアイで日本語教師として過ごした体験談、学校心理士としての実体験などを交え、「本来の自分自身を知ることが、人権を考える第一歩」と語りました。参加者らはアルパの美しい音色に耳を傾けながら、人権に対する理解を深めました。

四十七チームが 健脚競走 町民駅伝競走大会

第三回京丹波町駅伝競走大会(町体育協会主催)が十二月九日、瑞穂地区のふれあい広場(和田)を発着点とする周回コースで開催され、スポーツ少年団や中学高校のクラブ員、職場の同僚でつくったチームなど計四十七チーム、約二百八十人が参加し、健脚を競いました。

この日は、あいにくの雨模様になりましたが、ランナーたちは応援に駆けつけた家族や友人、職場の同僚などのあたたかい声援を受けながら、次々にたすきをつないで力走していました。



号砲とともに一斉にスタートを切るランナーたち。(瑞穂地区ふれあい広場、和田)

観光団体が一堂に会し、 熱い議論 観光団体意見交換会

観光協会の設立に向けて話し合う「観光団体意見交換会」を十二月十日、町中央公民館(蒲生)で開催。町内の観光施設や商工会、NPO法人の関係者ら約二十人が出席し、意見を交わしました。

この日の会合では、株式会社ツーリズム・マーケティング研究所の主席研究員で観光アドバイザーの松井一郎さんを座長に、観光協会に期待することや、組織をだれが、どういう風に支えていくべきかなどについて意見を話し合いました。出席した委員からは、「観光ルートの整備や観光施設相互のネットワーク化が必要」「情報発信の大切さを強く感じる」「観光ボランティアなど住民の参画があっても良い」などの意見がありました。

町では、出された意見などを踏まえ、今後、観光協会の設立に向けた準備を進めていく予定です。



熱心に意見を出し合う出席者。(町中央公民館、蒲生)

子どもたちの募金、 質美小でユニセフ募金

毎年十一月十三日から十二月四日までを「人権週間」と定め、「ユニセフ募金」を行っている質美小(湊友三郎校長、児童数三十八人)は十二月十八日、全児童から集まった募金を日本ユニセフ協会に送るため、松山郵便局に届けました。

ユニセフ募金とは、発展途上国や災害、紛争などの被害を受けた特定の国、地域の子どもたちを支援する活動。募金に先立ち児童たちは、戦争下にある国の子どもたちの生活実態を学び、平和と人権への意識を深めました。児童会長の林巧徒くん(六年)は、「世界には、恵まれない同年代の子たちがたくさんいると知りました。今の自分たちの恵まれた生活に感謝し、自分たちにも何かできないかと、貯めた小遣いの中から出し合った募金です。この募金で一人でも多くの人を助けたいと思っています」と話していました。



集まった募金を松山郵便局に届ける質美小児童会の子どもたち。(松山郵便局、和田)

わたしの年賀状

子年

生まれの人登場

今年のえとは「子」。
このページでは本町の
「子年」生まれ一、四八二人の中から
六人の皆さんに登場していただき、
今年の抱負など自由に語っていただきました。



要約筆記は、
やりがいの
ある活動。
がんばります。

ほり
堀 たまきさん (本庄)
昭和23年生まれ

要約筆記サークル「くさぶえ」で活動しています。難しく、奥が深い活動ですが、やりがいもあります。これからも続けていきたいです。地域の皆さんに支えられて暮らしていることに感謝し、今年も元気に過ごしていきたいですね。



チームをまとめ、
新人戦で
優勝するぞ。

きたむら さゆき
北村 咲幸さん (豊田)
平成8年生まれ

バレーボールスポーツ少年団「フレンズ」のキャプテンとして、チームをまとめ、まずは春の新人戦で優勝をめざします。がんばって練習して、どんなに強いアタックが飛んできても、しっかりレシーブできるようにになりたいです。



家族支え合い、
健康で元気に
過ごせる
一年に。

いまし あきら
今西 章さん (口八田)
大正13年生まれ

健康づくりのために、好きなスポーツを続けていきたいと思っています。そして、高齢者の国体ともいわれる「ねんりんピック」出場が今年の目標です。家族支え合って、健康で元気に一年が過ごせませうように。



教師になって
二年。
自分らしさで
かんばるぞ。

たに
谷 あゆみさん (坂原)
昭和59年生まれ

生徒たちと接する中で、常に自分のことを見つめ、自分自身も成長していく、それが教師にとって大切なことだと思えます。教師になって二年目の新年。自分らしい指導で、生徒たちにいるんなことを教えていきたいです。



初心に戻って、
いろんなことに
チャレンジ。

さ さくら よしひろ
佐々倉 義弘さん (実勢)
昭和35年生まれ

年男として、何ごととも初心に戻って取り組んでいきたいと思っています。失敗を恐れず、いろんなことにチャレンジしていきたいです。地域の方々への感謝の気持ちを忘れず、家族全員明るく健康で、楽しく過ごせる年にしたいですね。



交通事故のない、
明るいまちに
なりますように。

ほそみ まさあき
細見 正明さん (上大久保)
昭和47年生まれ

交通指導員として明俊小学校の前で交通指導にあたっています。最近、子どもたちとも顔なじみになり、お互いあいさつを交わす中で、やりがいを感じています。交通事故のない明るいまちになることが、わたしの願いです。

編集後記

特集「防災」の編集をしていたら、13年前の記憶がよみがえってきた。学生時代を神戸で過ごした編集子にとって、阪神・淡路大震災の激震は忘れられない。空襲でも受けたかのような、変わり果てた街並みの光景も、まだ覚えている。しかし、一方で、自分の中で震災の記憶が少しずつ風化しつつあることを否めない。1月17日、改めて思い起こしてみよう、地震の恐ろしさと命の尊さ、そして震災から学んだ教訓を。(Y)